

平成29年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」第2回「身近な公園で自然観察」（テーマ：自然）

- 実施日時 平成29年7月28日（金）10時00分～16時15分
□受講者数 11名（教員8名、研修・聴講者3名）
□実施場所 善福寺公園（杉並区善福寺）、杉並区立桃井第四小学校
□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. ゲストティーチャーからの講義及び実習

（ゲストティーチャー：環境省環境アドバイザー等

山室京子氏、六車貴美子氏、佐々木清子氏）

- ・善福寺公園を歩き、「フィールドビンゴ」をやりながら、自然観察会を実施
- ・ネイチャーゲーム「カモフラージュ」の体験





【午後】

3. 環境学習プログラム「自然に親しむプログラム」の紹介及び実習

(講師：NPO法人 環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

(1) 「自然に親しむプログラム」プログラム紹介と体験

①「葉っぱ合わせ」概要

- ・数種類の木の葉っぱを2枚ずつ用意して、どの葉とどの葉が同じ木の葉っぱか、色や形、手触り、厚さ、におい等をよく調べて葉っぱ合わせを行う。班ごとに、なぜ同じ葉っぱだと判断したのか、また気づいた点などを発表する。
- ・使用した葉っぱが、実際に校庭のどこにあるのかを探しに行く。木を見つけたら、葉っぱだけでなく、木全体を観察する。

②その他のプログラムの紹介

- ・校庭の自然マップづくり、秋の宝物さがし、冬芽拡大図鑑
- ・「緑の役割を知ろう！」(温度くらべ) など



（２）環境学習のポイント ～体験の重要性・森は命のみなもと～

- ・子供は実際に物事を体験する中で、理解し、気づき、学んで成長する。しかし、現代の子供たちは、遊びや地域との関わりが希薄であり、様々なことを体験的に学ぶ機会が少なくなっている。このため、学校教育の場で体験に基づき子供の感性を伸ばすことが、昔と比べ非常に重要。
- ・環境学習もその一環であり、「自然は人間やすべての生き物のいのちの源である」ことを、実際の体験や気づきを通じて、子供の心の中に落とし込むことが大切。

(3) まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し、受講者で情報を共有。



(発表意見の例)

- ・再開発地域で自然が少ないが、近くの公園で体験させてあげたい。校庭にも自然が少ないので、ビオトープなどを作るような働きかけもしてみたい。
- ・自分自身の知識がないことで、なかなか踏み込めなかったが、子どもに興味を持たせることでいいという先生の意見に安心した。
- ・生徒の人数が多くて、一人一人に伝えるのが課題だと感じた。
- ・ビンゴやネイチャーゲームは参考にしやすい。自然界との共存という視点は、道徳の話にもなる。
- ・「葉っぱ合わせ」では、自分もしっかり観察することができた。自分にも知識がなかったが、こうして葉っぱの違いを見つけるだけでも子どもの関心につながると感じた。
- ・まずは、校庭の木を自分で見てみたいと思った。

4. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後、解散